

**【第283号 紙面案内】**

第2～5面……第68回全国研究大会関連

第6～9面……各部会のお知らせ、山城賞および山城賞奨励賞募集など

第68回全国研究大会統一論題解題

大会実行委員長 篠原 淳（日本経済大学）

統一論題「地域における企業家とマネジメント」

日本マネジメント学会第68回全国研究大会は福岡県福岡市にあります九州産業大学で「地域における企業家とマネジメント」という統一論題のもと、10月18日(金)から20日(日)に開催いたします。

今回の統一論題テーマ設定にあたり、「『福岡』で『2013年』に開催する意義」を考えました。まず「福岡」市の特徴として日本の主要都市の中で最も開業率が高い点を挙げる事ができます。企業家の活躍する福岡が会場になることから「企業家」を設定しました。

その企業家に関する研究としては「2013年」になり、ジャーナル誌 Entrepreneurship Theory and Practice がソーシャルキャピタルを特集し、Journal of Business Venturing が制度とコミュニティを特集した点に注目できます。おおまかに二つの特集は、「地域における企業家」を取り扱ったもので、このテーマへの注目の高まりを示すものです。また、地域における企業家は学術界のみならず日本の政策としても注目されています。昨年度の補正予算から本年度の本予算にかけて地域の需要に焦点が当てられ、2013年から地域と企業家にウエイトをおいた政策が取られるようになりました。企業家自体も、数年前より社会企業家、ノマドといった新しいタイプが現れその活躍の範囲を増しております。今後「地域における企業家」の活躍がますます注目されるでしょう。

今回の統一論題では福岡の「地域における企業家」の代表的な方々を実務家報告者として設定しました。実務家報告者とわたしたちとの議論がどのような化学反応を見せるのでしょうか。充実した議論のためにも会員皆様による議論への参加が不可欠です。多くの皆様がおいでになり議論していただきたく心からお願い申し上げます。

さて、「福岡」といえば明太子です。「福岡」の「2013年」のトピックとして、明太子の生みの親、ふくや創業者の川原俊夫氏生誕100周年という点を見逃すことはできません。今回は、ふくや代表川原正孝氏を特別講演講師としてお招きし、この4月にリニューアルオープンしたばかりのふくや明太子工場「博多の食と文化の博物館ハクハク」を企業見学いたします。

福岡の地で2013年に開催する日本マネジメント学会、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

日本マネジメント学会第68回全国研究大会プログラム

統一論題 「地域における企業家とマネジメント」

会場：九州産業大学

第1日 2013年10月18日(金)

15:00～17:00 企業見学 株式会社ふくや
18:00～ 理事会（九州産業大学1号館10階中会議室）

第2日 10月19日(土)

9:30～ 受付
10:00 会長挨拶 日本マネジメント学会会長 加藤茂夫
開会挨拶 第68回全国研究大会実行委員会委員長 篠原淳

10:10～16:00 統一論題セッション（報告：各40分 討論70分 計150分）（1号館2階S201教室）

10:10～12:40	統一論題セッション1
報告者(1)	古川隆（株式会社福一不動産 代表取締役）
報告テーマ(1)	崖っぷち社長の逆転戦略
報告者(2)	井上善海（東洋大学）
報告テーマ(2)	スモールビジネス・イノベーション
コメンテーター	櫻澤仁（文京学院大学）
司会者	佐々木利廣（京都産業大学）

12:40～13:30 休憩

13:30～16:00	統一論題セッション2
報告者(1)	伊原ルリ子（株式会社晴天）
報告テーマ(1)	女性の自立が日本の未来を変える～ピンチをチャンスに変える方法～
報告者(2)	杉田あけみ（千葉経済大学短期大学部）
報告テーマ(2)	女性の自立と企業におけるジェンダー平等
コメンテーター	細萱伸子（上智大学）
司会者	柿崎洋一（東洋大学）

16:20～17:30 特別講演（70分）（1号館2階S201教室）

16:20～17:30	特別講演
講演者	川原正孝（株式会社ふくや）
報告テーマ	私の経営理念～人を活かす経営～
司会者	小野瀬拓（九州産業大学）

18:00～ 懇親会（1号館7階大会議室）

第3日 10月20日(日)

9:00 受付

9:30～12:00 統一論題セッション(報告:各40分 討論70分 計150分)(1号館2階S201教室)

9:30～12:00	統一論題セッション3
報告者(1)	廣田稔(廣田商事株式会社)
報告テーマ(1)	起業家支援の経営実践
報告者(2)	亀川雅人(立教大学)
報告テーマ(2)	起業家育成の知的インフラ形成について
コメンテーター	佐藤一義(立正大学)
司会者	小椋康宏(東洋大学)

12:00～13:00 休憩

13:00～15:10 自由論題報告(各報告 報告:25分 コメントおよび質疑:15分 計40分)

13:00～13:40	A会場(N201教室) (自由論題)	B会場(N202教室) (自由論題)	C会場(N202教室) (自由論題)
報告者	加藤敏幸(東洋大学大学院)	佐藤聡彦(明治大学大学院)	Keeley Timothy Dean (九州産業大学)
報告テーマ	中小消費財卸売業者の機能強化と多様化—食品スーパーとの企業間提携における価値創造—	経営者哲学に関する一考察—戦後経営者の哲学形成の視点から—	タイにおける日系企業と欧米企業の人的資源管理の比較
コメンテーター	榎田智子(福山市立大学)	杉山三七男(静岡産業大学)	中村久人(東洋大学)
司会者	藤木善夫(東海学園大学)	松村洋平(立正大学)	東俊之(金沢工業大学)
13:45～14:25	(自由論題)	(自由論題)	(自由論題)
報告者	亀倉正彦(名古屋商科大学)	大原亨(東洋大学)	田中雅子(帝塚山大学)
報告テーマ	Resource Based Viewの理論的発展にむけての一試論—J Aあいち尾東の特産化プロジェクトを事例にして—	企業ドメインの定義における経営哲学の役割	個人における経営理念浸透プロセスの解明—若手・管理者・執行役員・経営者のインタビュー調査を総合して—
コメンテーター	中村公一(駒澤大学)	辻村宏和(中部大学)	瀬戸正則(広島大学)
司会者	木村弘(広島修道大学)	間嶋崇(専修大学)	大平義隆(北海学園大学)
14:30～15:10	(自由論題)	(自由論題)	(自由論題)
報告者	細野賢治(広島大学) 岩崎真之介(広島大学) 八島雄士(九州共立大学) 李只香(九州共立大学)	李少燕(福岡大学大学院)	相原章(成城大学)
報告テーマ	農村漁村再生戦略の構築にかかるインターローカルの視点—地域シンポジウム「民泊体験型修学旅行のいま、これから」—を事例に	蒙牛(Meng Niu)事件から見る中国食品業界のCSR	The Basics of Human Relations at the Workplace Re-examined
コメンテーター	當間政義(和光大学)	佐久間信夫(創価大学)	
司会者	池田玲子(羽衣国際大学)	堀田友三郎(東海学園大学)	手塚公登(成城大学)

15:10 閉会挨拶 日本マネジメント学会組織委員会委員長 辻村宏和

第 68 回全国研究大会開催校案内

九州産業大学は1960年に故中村治四郎先生が「産学一如」を建学の理想として創設されました。現在、社会科学系の経営学部、経済学部、商学部（同第二部）、人文科学系の国際文化学部、理工学系の工学部と情報科学部、そして芸術学部の8学部とこれらを基礎とする大学院5研究科から構成される総合大学として発展してきました。

建学の理想「産学一如」を重視した本学ではプロジェクト型教育に力を入れており、Kyushu Sangyo University の頭文字 KSU をかけた「キク・シル・ウゴク。」を合言葉に、現場の声を謙虚に聞き、現場で起きている事実の意味を知り、それに基づいて現場で動く教育を展開しております。特に経営学部の事業開発コースでは玉ねぎドレッシングの開発販売等、数多くのプロジェクトを学内、学外を問わず連携し展開しております。

このわたしたちの「産学一如」の理想は本学会の創設者山城章先生の「実・学一体」の理念に通じるものがあると考えております。奇しくも本学会（当時の名称は「日本経営教育学会」）の九州部会発足記念大会は、1982年5月22日に九州産業大学で開催されました。山城先生がご挨拶・活動報告をされ、岡本康雄東京大学教授（当時）、四名の大手企業の代表および人事の最高責任者が企業内教育の発表をされた盛大なものでした。

九州産業大学の位置する福岡市は、アジア地域から広く世界に開かれた都市であり、特に中国大陸や朝鮮半島との間には古代より長い交流の歴史をもち、博多商人はアジア地域との交易で活躍しました。古くから商都として栄えた福岡市は主要都市の中でも最も開業率が高く、女性企業家の比率が高い都市です。

キャンパスまでは福岡空港着陸から40分、博多駅から15分で到着できるだけでなく、天神、中洲といった市街地へもバスで20分のアクセスの良い場所でもあります。会員みなさまのお越しをお待ち申し上げます。



※ 日本経営教育学会九州部会発足記念大会の説明につきまして、吉岡隆彰先生からいただきました当時の資料を参考にさせていただきました。ありがとうございました。（小野瀬 拓）

特別講演・企業見学

～明太子生みの親生誕 100 周年～

今回の特別講演（19日）は株式会社ふくや代表取締役社長川原正孝氏より「私の経営理念～人を活かす経営～」をテーマにご講演いただきます。いまや福岡の名物として全国に知られる明太子は、川原正孝氏のお父様の川原俊夫氏によって開発されました。今回はその経緯から現在の経営実践をお話しいたします。

さて、今年 2013 年には川原俊夫氏の生誕 100 周年という記念すべき年です。テレビ西日本（フジ系列）では同氏の人生を描いた「めんたいびりり」を放送し好評を博しました。この節目の年の 4 月に、ふくやは明太子工場を「博多の食と文化の博物館ハクハク」としてリニューアルオープンしました。ハクハクは明太子の製造工程を見学できるだけでなく、博多の文化に触れるゾーン、ショップ、カフェも備えております。今回の企業見学(18日 15:00)は、このできたばかりのハクハクで行います。

2013 年の福岡の記念にふくやの明太子を味わってみてください。

※ 企業見学は福岡空港から吉塚駅経由でハクハクまでの送迎バスを用意しております。ご利用の方はハガキに連絡先をもれなくご記入の上、ご乗車される場所をチェックしていただきたくお願い申し上げます。なお、工場は吉塚駅から歩いていくことも可能です（徒歩 20 分程度）。

常任理事会報告

日 時：平成 25 年 8 月 24 日(土)

場 所：山城経営研究所 会議室

議 題

(1) 全国研究大会の件

第 68 回全国研究大会（九州産業大学：平成 25 年 10 月 18 日～10 月 20 日）のプログラムが承認された。

(2) 会員入退会の件

入会（個人 4 名）、退会（個人 6 名）が承認され、合計（個人 686 名、法人 4 社）となったことが報告された（平成 25 年 8 月 24 日現在）。

(3) その他

①日本マネジメント学会新雑誌レビューの件

新雑誌レビューについて経過報告があり、新雑誌名は「日本マネジメントレビュー（仮）」を中心に進められるが承認された。

②機関誌委員の追加の件

柿崎洋一委員（東洋大学）と鈴木岩行委員（和光大学）の任期満了にともない、機関誌委員会に以下の 2 名の補充が了承された。松本芳男氏（日本大学）、堀越勝氏（山城経営研究所）。

③第 69 回全国研究大会と第 70 回全国研究大会の件

第 69 回全国研究大会については文京学院大学で開催することが決定しており、第 70 回全国研究大会については、静岡産業大学で開催する運びとなっていることが報告された。

◇◇関東部会からのお知らせ◇◇

関東部会長 手塚 公登 (成城大学)

下記の通り、平成25年度第3回関東部会を開催いたします。プログラムの詳細につきましては次号の会報に掲載する予定です。ご参加の程よろしくお願いいたします。

なお関東部会では随時報告者を募集しております。

1. 日時：平成25年12月14日(土) 14時より (予定)
2. 場所：駒澤大学
3. 問い合わせ先：関東部会長・手塚 公登 (045-962-6181 tezuka@seiyo.ac.jp)

◇◇中部部会・開催報告◇◇

藤木 善夫 (東海学園大学)

平成25年6月29日(土)13時より、第47回中部部会が経営行動研究学会、経営哲学学会との3学会合同により、東海学園大学栄サテライトで36名の参加者を得て開催された。

第1報告は、山口正彦氏(愛知学院大学大学院研究員)による「新たな収益認識モデルにおける複数構成要素契約の検討」、司会・コメンテーターは友杉芳正氏(東海学園大学)であった。山口氏は、国際会計基準審議会が複数構成要素契約について特定の指針を提供していないとの問題意識に基づきアメリカとの比較を中心に、今後日本にも国際会計基準審議会が提案する収益認識基準が導入される可能性があることについて報告された。

第2報告は、亀倉正彦氏(名古屋商科大学)による「Resource-Based View と地域活性化についての一考察—JAあいち尾東の特産化プロジェクトを事例にして—」、司会・コメンテーターは櫻井克彦氏(東海学園大学)であった。亀倉氏は、地域活性化をResource-Based View (RBV) との関わりにおいて捉え、JAあいち尾東の特産化プロジェクトの事例を紹介された。

第3報告は、伊藤賢次氏(名城大学)による「経営における組織文化の重要性—トヨタ自動車を事例として—」、司会・コメンテーターは蕎麦谷茂氏(愛知産業大学)であった。伊藤氏は、企業経営にとっての組織文化の重要性についてトヨタ自動車を取り上げ、トヨタ自動車の組織文化の具体的な3層構造をまとめ、TPS(トヨタ生産システム)が大きな位置を占めていることを指摘された。

3件の報告後、今光廣一氏(愛知学院大学)による「トヨタ生産方式とテイラーシステムおよび名高商國松豊教授」の講演が行われた。司会は堀田友三郎氏(東海学園大学)であった。今光氏は温故知新の論法を試みつつ、テイラーの科学的管理法の本質が、組織の調和を通しての精神革命にあることについて講演された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされ、引き続き、堀田部会長を議長として次回開催校等に関する議事が審議された。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中か会員間の交流が深められた。

第48回中部部会は平成25年11月16日(土)東海学園大学栄サテライトで実施予定です。奮ってご参加ください。

なお中部部会事務局では、随時報告募集を行っております。報告を希望される方は藤木善夫(東海学園大学 〒470-0207 みよし市福谷町西ノ洞 21-233 TEL: 0561-36-5555, fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp)までお知らせください。

◇◇関西部会からのお知らせ(報告者の募集)◇◇

関西部会長 佐々木 利廣 (京都産業大学)

下記の通り、平成25年11月に開催します第2回関西部会の報告者を募集しております。報告を希望される方は、平成25年10月末までに報告タイトル等(仮題でも結構です)を下記まで御連絡くださいますようお願い申し上げます。

なお関西部会では随時報告者を募集しております。

1. 日時:平成25年11月30日(土)午後1時30分～
2. 場所:大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 (TEL 06-6910-8500)
JR東西線大阪城北詰駅2号出入口から西へ550m
京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅1番出口から東350m。
3. その他(報告の応募先)
部会会長 佐々木利廣(京都産業大学) E-mail: sasaki@cc.kyoto-su.ac.jp
部会幹事 堀野亘求(大阪NPOセンター) E-mail: i1351029@cc.kyoto-su.ac.jp

◇◇関西部会・開催報告◇◇

関西部会長 佐々木 利廣 (京都産業大学)

平成25年6月29日(土)午後1時30分から関西大学100周年記念会館において、日本マネジメント学会の昭和25年度第1回関西部会が開催された。小椋康宏先生(東洋大学)の参加もあり、他部会からの参加を含めて出席者は31名であった。

第一報告は、呉贇氏(京都産業大学大学院)「中国における企業管理の学習活動－1970年代末から1980年代までの書籍出版、講習、海外交流を中心に－」であり、70年代末から80年代にかけて中国政府が推し進めた日本の企業管理の学習活動にはどのような特徴があったのか、さらにその学習活動が中国の企業経営にどのような結果をもたらしたのかを具体的なデータをもとに分析した報告であった。学習活動の内容に関しては、中国が外国書籍の翻訳

や出版はもとより、企業管理視察団の派遣、企業管理協会の設立、企業管理訓練講座の開講、海外交流など多方面から日本の企業管理を学習してきたことを強調した。学習活動の結果に関しては、初期の現場生産レベルでの学習から組織レベルでの学習へと発展し、日本企業の強さを再認識することにつながり、中国企業の経営者に影響を与えたことが報告された。報告後の質疑では、中国企業の学習活動が戦後の日本企業の学習活動とどのように異なるかという比較、出版や訓練や国際交流以外の管理思想や管理方法の伝播ルートの存在、70年代から80年代における中国企業の企業形態、など多方面からの質問やコメントが寄せられた。

第二報告は、塩見芳則氏（大阪芸術大学短期大学部）による「ミドル・マネジャーに関する役割行動の適応と整合」というタイトルの報告であった。外部環境が質的に変化するなかで組織そのものもパラダイム転換が求められていることを前提にして、組織のパラダイム転換のプロセスでミドルはどのような役割行動を果たすべきかを提示しようとした報告であった。報告では、ミドルとしての個の尊重を中核にしなが、フォーカス・ミドル、クリエイティブ・ミドル、コンセプト・ミドルという用語で表される3つの能力あるいは役割行動をもつミドルをコア・ストラテジー・ミドルと呼んでいる。こうしたミドルはこれまでの調整型ミドルとは違って多様な役割を果たすミドルであり、組織のパラダイム転換の中心的役割を果たすミドルであるという。最後に事例として2社をあげながらコア・ストラテジー・ミドルの存在を検証しようとした。報告後の質疑では、報告で使用しているパラダイムの意味、タイトルで使われている整合の意味、ミンツバーグの管理者論との理論的関連性など多くの質問が寄せられた。いずれにしても、多くの研究業績があるなかで長期にわたりミドル・マネジャー体験をしてきた報告者ならではの視点を提示しようとした報告であった。

第三報告は、田中雅子氏（帝塚山大学）「若手成員における経営理念の浸透－堀場製作所の事例」であった。これまでの経営理念研究の蓄積をもとに、個人レベルでの理念浸透の初期段階におけるプロセスを明らかにしながら、組織レベルでの理念の浸透施策のプロセスや効果について明らかにしようとする意欲的報告であった。理念浸透プロセスそのものが相互作用過程であることからシンボリック相互作用論を援用しながら、堀場製作所の一般従業員へのインタビュー調査をもとに「おもしろおかしく」という経営理念が上司や同僚との相互作用のなかでどのように解釈されているかを明らかにしようとしている。入社3年目の成員と入社8年目の成員のケースを比較しながら、入社初期段階の単なる義務感であった経営理念が、いくつかのモデルケースを観察することで主観的解釈が進み、さらに経験や尊敬する上司との相互作用のなかで意味を再編成することで客観的解釈が進んでいき、さらに他者の期待や支援が望ましい行動を誘発する源になるという。こうした研究は、主体性を育てる新人研修プログラムの計画や実践の際にも有効であり、経営学以外の領域の研究成果を取り込む余地もあるという。報告の後フロアから、経営理念の継承と変化可能性、経営理念と業績との相関、抽象的理念と具体的理念での理念浸透過程の違い、インタビュー調査上の留意点、など非常に多くのコメントや質問が寄せられた。大変に盛り上がった時間であったが、それは報告テーマの面白さと報告者の研究姿勢によるものと思われる。

報告会終了後、隣のレストランで懇親会が行われ、会員間の相互交流が行われた。今年度の第2回関西部会は、11月30日(土)午後1時30分から大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）で開催される予定である。研究報告の希望者を募集していますので、早めに佐々木あるいは幹事までご連絡ください。

◇◇中国・九州部会参加報告◇◇

新川 本（長崎県立大学）

平成25年8月24日(土)の14時より、中国・九州部会が九州産業大学において開催された。中国・九州部会長の篠原先生（日本経済大学）の挨拶のあと、第1報告として井手圭輔氏（経営コンサルタント）による「企業の成長と衰退および破綻に関する一考察—古河鑄造株式会社を事例として—」を皮切りに、第2報告・後藤浩士先生（日本経済大学）「地域創造企業のCSRへの取組み—熊本発・（財）化血研の挑戦—」、第3報告・中原康征先生（東海大学）「経営者行動と意思決定—中小企業の情報技術投資を中心として—」の3報告が行われ、それぞれの精力的な報告とともに活発な質疑応答・意見交換が行われた。



関 文彦 氏

その後、特別講演として関文彦氏（株式会社関家具代表取締役社長）により、「40年間赤字なしの経営」が行われた。関社長のトレードマークである黒シャツ・黒ジャケット・赤ネクタイの姿に会場に登場とともに引きつけられ、講演内容も創業以来44年間赤字なしの経営について“我が心情”「我が人生家具一筋、60年ひた走る情熱7ヶ条」および「株式会社関家具経営の心得13ヶ条」に基づく実践例には興味を惹かれる内容であった。和やかな雰囲気の中、質疑応答が行われ、丁寧に時間いっぱいお答えいただいた。

全プログラム終了後の懇親会にも多くの会員が参加し、活発な意見交換、近況報告がなされて、一層の交流を深めることができた。

◇◇産学交流シンポジウムのお知らせ◇◇

11月30日(土)に東洋大学白山キャンパスにて産学交流シンポジウムを開催いたします。テーマは、「異分野から学ぶ、これからの人材育成」です。報告者は、柳内伝統音楽院主宰柳内調風氏、一般財団法人国土災害管理財団副理事長（元海上自衛隊 幹部操縦士、機長、編隊長、サバイバル指導幹部）神山清明氏 産業能率大学総合研究所教授 佐伯雅哉氏です。詳細は、次号の会報あるいはホームページにてお知らせいたします。どうか奮ってご参加下さい。

◇◇山城賞および山城賞奨励賞募集のご案内◇◇

平成25年度山城賞（本賞）と山城賞奨励賞を以下の要領で募集いたします。奮ってご応募ください。自薦または他薦をお待ちしております。

1. 選考対象

対象作品は、平成24年10月1日～平成25年9月30日までの1年間に発行されたもの。ただし、対象者は本学会会員であり、応募作品は本学会の研究活動関連する領域のものとし、同一単行本および同一論文の連続応募は認められない。

2. 山城賞（本賞）の応募対象

単行本（日本語または英語に限る。共著も可であるが、2名までとし各人100頁以上の執筆分担が明確なものとする）

3. 山城賞奨励賞の応募資格

- (1) 対象作品:学術研究雑誌である日本マネジメント学会誌『経営教育研究』第16巻第1号・2号およびこれに準ずる本学会の刊行物に掲載された論文（日本語または英語に限る。共著不可）

- (2) 応募者の年齢：35歳以下（1977年10月1日以降に生まれたもの）

4. 応募方法

- ・自薦・他薦いずれも可。
- ・自薦の場合、当該作品3部および内容要旨（A4用紙で1,200字程度）と履歴書を事務

局に提出する。

- ・他薦の場合、自薦の提出書類に加えて他薦の推薦書（A4用紙で以下の6項目を記載したものを）を事務局に提出する。

①推薦者氏名、②推薦者所属機関、③推薦者の連絡先、④著者名および書名（あるいは論文名）、⑤出版社名（発行所名）、⑥推薦理由

- ・提出書類、作品については返却いたしません。

5. 山城賞（本賞）・山城賞奨励賞推薦基準

日本マネジメント学会会員の著書・論文で経営体の諸活動に関する実践的研究の発展の向上に資するものであること。

①経営原理の歴史的展開または体系化、さらに経営環境の変化に伴う新しい経営原理の提起に関するもの。

②経営原理の実践に関する技法の体系化、技法の新展開に関するもの（経営原理に基づいて開発された技法であること、開発された技法が新しい経営原理を導くものであること）。

③研究領域は事業体を問わない（いわゆる非営利事業体の全てをも含む）。また地域的特（国際化、各国別特性－日本型経営など、各国別比較など）や経営体の機能別（財務、人事・労務、製造、マーケティングなど）、階層別（経営リーダーシップと管理リーダーシップ）分野を問わない。

6. 応募締切：平成25年12月21日(土)必着

◇◇韓国経営教育学会への派遣報告者再募集◇◇

国際委員会委員長 中村 久人（東洋大学）

この件では、8月31日(土)の締切日までに応募者がありませんでした。

開催日時および開催場所が決定しましたので、再募集させていただきます。尚、派遣先、応募資格、応募方法、その他については会報 No. 282 に記載しております。

開催日時：11月16日(土)

開催場所：ソウル市所在のソキョン大学（Seo Kyeong Univ.）

締切日：10月15日(火)

本欄～会員の最新刊著書を紹介します～

- ・岡本眞一編著、當間政義著『環境経営入門（第2版）』 日科技連、2,000円＋税

*会員の皆さまの最新刊著書をご紹介したいと思います。事務局への献本（1冊）をお願い致します。

編集後記

9月以降は学会シーズンを迎えます。今号では、九州産業大学で行われる第68回研究大会の案内を掲載しております。ぜひともご参加下さい。 会報委員会一同

発行 日本マネジメント学会
（旧称：日本経営教育学会）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4
株式会社山城経営研究所（担当：魚住）
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 榊ドットケイズ TEL 03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp